



木更津市立木更津第二中学校
〒292-0801 千葉県木更津市請西941番地
☎0438(36)2280 FAX0438(36)2233
E-mail:kisarazu2-j@kisarazu.ed.jp
<https://www.fureai-cloud.jp/kisa-kisarazu2-j>



木二中 学校だより 令和7年5月19日
No.07/92 校長 山元 竜二

2025年が節目の年に

先月のある日、授業が行われている校舎を巡回していました。3年5組が社会科の授業中。黒板には「第一次世界大戦」、「第二次世界大戦」の文字。今年度着任された刈込先生からの「大戦のきっかけになった出来事って何だと思う？」という問いかけに「うーん」と考え込む生徒たち…。

時代は令和、当たり前と言えはそれまでですが、「空襲警報」が鳴り響くわけもなく、グラウンドに目を向ければ、新体力テストを受けている生徒たちの活気溢れる声がこだまする…。学校は平和な時間がゆっくりと流れ、いつまでもこの平和が続きますようにと思いを馳せた後、私は全フロア、全教室を巡回する一日のルーティンを終え校長室へ。

校長室には、昭和22年(1947年)初代校長、佐治貞一先生に始まり、令和5年(2023年)第23代校長、高橋達之先生に至るまで23名の歴代校長先生方の顔写真が飾られています。(昭和60年第8代校長、重田吉彦先生までは肖像画)

戦後間もない昭和22年に開校した木更津第二中学校は、令和7年、西暦で言うと、2025年に至るまでその歴史と伝統を数多くの先生方や卒業生たちの努力によって脈々と紡いできました。今年、創立78年目を迎えたこととなります。

2025年が節目の年になると冒頭に記しましたが、何の節目になるかすぐに答えられる木二中学生がいたら素晴らしい。令和7年、2025年は、先の大戦が終結してから80年を迎える節目の年になるのです。きっと今年の夏、8月15日の終戦記念日には列島各地で恒久平和に向けた記念式典や平和祈念イベントが大々的に開催され、戦争のない世界、核兵器廃絶の機運が一段と高まることになるのではないのでしょうか。

中学生である皆さんも節目である戦後80年を機に、「平和」、「戦争」、「核兵器」などをキーワードに「現在」、「過去」、そして「未来」に思いを馳せる時間を作ってみてはどうだろうか？スマホの画面、たまにはゲームやSNSではなく、戦後80年にまつわる記事が掲載されたページにしてみてもはどうだろうか？

かく言う私は、「そう言えば今年は戦後80年になるんだなあ…」と2月頃から読み始めた硫黄島に関する書籍を最近ようやく読み終えたところです。その書籍、酒井聡平著「硫黄島上陸 ～友軍ハ地下ニ在リ～日本兵1万人がいまだ行方不明の謎」

温泉や観光資源が豊富でかつてはリゾート地として栄えた硫黄島は、第二次世界大戦末期に日米両軍が激しい戦闘を行った激戦地に。現在は自衛隊の基地が置かれ、硫黄島戦没者の碑(天山慰霊碑)が昭和46年当時の厚生省によって建立されていますが、一般人の立ち入りは厳しく規制され、何人たりとも硫黄島に足を踏み入れることはできません。(興味がある人は調べてみてください。歴史の勉強になると思いますよ。)

そう言えば、天皇皇后両陛下が、4月7日の午後、硫黄島を訪問し、戦後80年にあたって戦没者を慰霊されたことが報道されていましたね。(中学生もこのようなニュースには敏感になってほしい)戦後80年の今年は、硫黄島の他にも沖縄、広島等、慰霊のために訪問される予定だそう。

ちなみに、小笠原村公式サイトによると、硫黄島で戦死した日本兵の遺骨は、約2万1900人。そのうち収容された遺骨は約1万652体で、未収容の遺骨はいまだ半数以上。何とも居たたまれない気持ちになります。

木更津第二中学校が開校した当時は、戦後間もない昭和22年。戦中は空襲によって木更津の空が赤く染まった夜もあったでしょう。生き伸びられる保証もない毎日だったでしょう。それでも先達が力強く立ち上がり、戦後復興に尽力されたからこそ、今の平和がある。今ある平和が決して当たり前ではないということを私たち現代人は、どこかで再確認しなければならないと思います。

*注1) 君たちと同年代の日本兵もいたはずです。*注2) 「生きて虜囚(りよしゅう)の辱(はずかしめ)を受けず 死して罪禍(ざいか)の汚名を残すこと勿(なか)れ」。多くの日本兵が、米軍の捕虜になるくらいなら自決することを選んだのだそう。どんな思いで最後の手榴弾をポケットに忍ばせていたのだろう…。(攻撃で用いるはずの手榴弾、最後の一発だけは残っていたそうです…。自決するために。)

＊注1) 君たちと同年代の日本兵もいたはずです。

元々、硫黄島には約1,100人の人々が住んでいました。しかし、米軍上陸の8ヶ月前、1944年6月に全島民に対して疎開命令が下され、内地に送られることに。ただし、16歳以上の少年を含む男性103人は、硫黄島に残り、日本軍を支援する軍属になることを強いられた。このうち、生還できたのは10人。

[小笠原村公式サイトより]

(疎開(そかい)=被害・損害を少なくするため、人や物を分散・移動させること)

(内地(ないち)=日本本土のこと)

＊注2) 「生きて虜囚(りょしゅう)の辱(はずかしめ)を受けず 死して罪禍(ざいか)の汚名を残すこと勿(なか)れ」

これは、当時の陸軍大臣・東条英機が、陸軍軍人としてとるべき行動規範を示した文書の中の有名な一節。「第八 名を惜しむ」の項に記されており、この一節があったことにより戦場での投降呼びかけ無視・集団自決などを引き起こす一因となったとも言われている。要約すると「生きて捕虜になるより、死を選べ」という意味です。これは、捕虜になることよりも、自決することが尊いという考え方を示しています。

硫黄島で首より上がない(頭部がない)遺骨が多いのは、自決が原因ではないかと言われています。

また、米軍兵士が記念品として何千もの日本兵の頭蓋骨だけを持ち帰ったため、硫黄島の戦没者遺骨は、ニューギニア、フィリピン、ビルマ(現在のミャンマー)といった他の海外戦地の遺骨と比べて特に頭部がない遺骨が非常に多いとされています。

[硫黄島上陸～友軍八地下二在リ～より]

体育祭ご来場に際して

29日(木)に体育祭を開催いたします。これまでも多くの行事でご協力をいただいたように、ご不便をおかけしますが、車でのご来場についてはご遠慮いただくようお願い申し上げます。

また、近隣の商業施設への駐車についてもご遠慮いただくよう重ねてお願い申し上げます。

当日は、朝早くからPTA役員様、おやじ会の皆さまが主な商業施設にご迷惑をおかけしないようにして下さっています。この場を借りて感謝申し上げます。本当にありがとうございます。

昨今、本校学校行事における車両の駐車に関して、近隣商業施設から大変厳しいお叱りの連絡を受けています。内容によっては、防犯カメラの映像を基に、一般客が駐車場を利用できなかった時間の分、営業損失を補償していただくというものもあります。行事の度に近隣商業施設へ謝罪に伺っておりますが、今後そのようなことがないようにくれぐれもお願い申し上げます。

また、近隣商業施設にご迷惑をおかけしないようにして下さっているPTA役員、おやじ会の皆さまに対しましても、暴言・誹謗・中傷等なきよう切に重ねてお願い申し上げます。

なお、29日(木)体育祭当日のみ木更津第二小学校グラウンドを駐車場としてお借りすることができました。小学生の登下校時間帯は避け、ご利用いただければと思います。よろしくお願いいたします。